

## 3

## 意図の確認

鎮静薬を投与する意図は苦痛緩和であり、生命の短縮ではないことを医療チームで共有する。

調節型鎮静を行う場合は、苦痛の程度にあわせて鎮静薬の投与量を調整するため、意識の低下そのものも意図しない。意識の低下が生じたとしてもそれは苦痛緩和の結果であることを共有する。持続的深い鎮静を行う場合は、苦痛を緩和するために意識の低下を意図していることを共有する。